



深山の桜

令和 2年 8月
第 20号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

意識が変わると行動が変わる

私は仕事をするうえで、特に気を付けていることが3つあります。

- ① ゴールを設定したうえで、タイムスケジュールに落とし込んだ行動指針を立てる。(計画・段取り)
 - ② 自分がしたいことを周囲に話し、共通認識を持つ。(情報共有)
 - ③ 小さな失敗にくよくよせず、あきらめない強い心を持つこと。(信念)
- 表現的に正しいかは別として、わたしは仕事を頂いた時に、自分の中にあるスイッチが「カチッ」と切り替わる音を、何度も聞いたことがあります。今振り返ってみると、それが意識の変わる瞬間だったのかもしれない。

意識を変えと言っても、今までの生活スタイルや習慣を見直すのは、簡単ではありません。そこには、強い信念と決意が必要になります。たくさんの誘惑もあつて、本来しななければならぬ行動を阻害します。人は樂を覚えると、どんどん樂な方向へと引張られて、更に樂ができるように、自分の気持ちをし向けます。私も意志の弱い人間です。健康診断の結果をないがしろにし、症状が悪化、周囲の方に、不安を与えてしまうという結果を招きました。3つの要素を踏まえて努力をするのですが、自分の行動は後回しにしてしまふという癖があるようです。これからは、自分のことも、他人のことも、しっかりと向き合つて、意識を変え、行動を変えていきたいと考えています。

弊社の社員の一人が、この半年間大きな目標を立て、それに向けての歩みを始めました。彼は短気で、自分の意に沿わないことを言われると、直ぐに表情や態度に出していました。40歳を過ぎていましたし、今までの生き様を、他人から指摘され変えることは難しいと思っていました。しかし彼は疑いもせず、わたしの想いや会社の将来、そして自分が、その将来にどのように関わっていくかなど、自分を過去の自分と向き合つて決着をつけてくれました。これこそ意識です。他人を蹴落とすのではなく、自分が成長することで周囲を感化することに気づいてくれたのだと思います。本人も「まだまだです。」と他人の批判をするのではなく、謙虚に自分の行動を見つめてくれています。私は恩師より素晴らしい言葉を頂戴しました。

「学ぶことは、行動のきっかけづくり、行動は学んだことの証です。学んで行動を起こさないと、真に学んだことにはなりません。学ぶことは、行動することです。」

私の中核たる業務は、社員をやる気にさせることです。そのために意識改革を実践し、行動するきっかけを与えることを今後も継続していきたいと思ひます。わたしの意思を組んで、社員が行動を起こしてくれたことに感謝するとともに、さらに成長しようとする姿を身近で感じられる私はとても幸せです。

クラブハート所長 久保成明



深山の桜

令和 2年 9月
第 21号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木の
魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集まり、
だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport
発行者 久保成明
〒818-0004
筑紫野市大字吉木2459-1

皆が一生懸命になることで乗り越えられる

今の時代は、情報の量によって受けられるサービスやその質について優位になることが多々あります。本当に必要な方には支援やサービスが希薄で、制度を知るものが実った果実をむさぼるといつても過言ではありませんが。そのためにもグラブサポートで働く者には、しっかりと制度を理解し、必要な方に必要な情報が届くように日々研鑽していただきたいと思います。

数年前の話ですがこんなことがありました。40代の軽度知的障害と難病を患う方で、高校卒業後自衛隊に入隊。勤務態度はとてまじめでしたが、運転免許や資格試験になると上手くいかず、実技については、危険性を伴うという理由で普通免許証以外は取得できませんでした。自衛隊を数年で退職した後、上官の紹介で民間警備会社に勤務。勤務態度は真面目で、警備会社から表彰を受けることもあったそうです。20年近く勤務していましたが、劣悪な環境の上、勤務時間が夜勤を伴う仕事であり、親御さんはいつも心配されていました。そんな彼がある時、ジストニアという難病になりました。ジストニアは脳の神経系の病気で、頭痛、歯の食いしばり、判断能力の低下を招くことで知られています。食いしばりが強い為、食事が摂れず、体重が20キロ以上減りました。専門医の診察後、急を要するという事で、脳に電極を埋め込む手術を施して、強制的に口が開くようになったお陰で、食事が摂取できるようになりました。真面目に勤め上げた職場を去るのは辛かったことでしょう。もうまともな仕事には就けない、でも生活はしなければいけない、様々な想いが彼を追い詰めます。その頃、診察してくださった先生が「彼は知的障害があるのではないか？」と診断を下さいました。結果療育手帳を取得でき、幼少のころからの自分に起こった出来事が本人にも身近な家族にも腑に落ちたそうです。彼は、人の力を借りることを嫌う性格のようで、何でも自分で解決しようとするあまり、うまくいかず、周囲を不安にさせることがあります。人の言うことを素直に受け入れられないところもその一つで、自分が障がい者年金を取得できるのかを何度も役所に電話をしては腹を立て、肝心なことは聞かずに、「わからん、めんどうくさい、もういい。年金なんかいらん。どうせもらえんけんが。」と腹を立て、あきらめてしまっています。家族の説得にも応じず、次第にふさぎ込むようになりました。休職期間も残りわずかになったとき、家族が動きまわります。市役所に再度掛け合い、社会保険事務所にも何度も行って、彼のことを知ってもらおう努力をした結果、年金の審査が下りました。家族も高齢に近づき、彼一人を残して去ることへの不安があったと思います。年金が取得できることを聞いた彼は、安堵の表情を浮かべ、積極的に就職活動に取り組みました。現在、高齢者施設で介護補助として立派に働いています。不器用ですが気持ちの優しい私の大切な兄です。皆が本気で心配し、正しい行動を諦めずに行うことで乗り越えられることもあるということを兄から教わりました。そんな私は本当に幸せです。

グラブサポート所長 久保成明



令和 2年 10月
第 22号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木
の魅力に少しづつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

流紫野市大字吉木2459-1

不快さを与えないために一人一人ができること

生活していると様々な音を拾ってしまいます。時に心地よさを感じたり、不快さを感じたりする経験はどなたでもあることでしょう。

私が思う心地よい音とは

- ① 水が岩や窪みにぶつかりながらも遂らうことなく、高いところから低いところへと流れていくときの音
- ② 冬の夜中に深々と降り積もった雪が「ぼたっ・ぼたばたっ」と地面に落下する時の柔らかさの中にも力強さが感じられる音など、言い出したら切りがありませんが心が落ち着く瞬間が感じられる音がそれのような気がします。

私が思う不快な音とは

- ① 物を移動させるときや並べる時などに「がちやがちや」と乱暴な扱いをして、立てなくても良い音をわざわざ立てているように、周囲を錯覚させるような音

② 机などから書類や備品が「ばたん」と落ちる時の音

まだまだ自分自身が未熟なこともあって、正直イラッとくることがしばしばあります。(反省)

一般的にはどんな大きな音であっても、自分が「うるさい」と感じず、興味関心があり参加していることとであれば腹も立ちません。しかしどんなに小さな音であっても自分が「うるさい」と感じてしまったらそれは騒音に変わってしまいます。例を挙げると、アパートの2階に最愛の孫が住んでおり昼夜問わず飛び跳ねたり移動したりで音がする場合、孫であるという前提条件がある為、寛容さと思いやりが生まれます。これが他人であれば迷惑行為に他ならず、トラブルへと発展するケースもあるのではないのでしょうか。すなわち、「不要な物音を誰に対しても立てないように思いやりのある行動」ができれば、相手を驚かせ、不快にさせることは確実に減ります。少しの気のゆるみで、知らず知らずのうちに、周囲の方々へ不快さを与えていることをもと自覚すべきだと反省しています。

「唯心所現^{ゆいしんしよげん}」という言葉があります。意味は、心の状態がそのまま身のまわりに現れることのとえださうです。心の持ち方次第ですべてが決まり、心にクセがある人は身のまわりが散らかっていますが、素直な人のまわりは整然と美しく保たれているそうです。

社員には常に、デスクはきちんと整えるようにお伝えしていますが、なかなか「整然と美しく」にはなりません。唯心所現を意識した行動の結果、仕事の効率アップにつながることを期待します。「たかだか音くらいで：。」と思わずに心の状態を常にニュートラルに置くことで、周囲の人を安心と喜びで包み込めるように努力していただければ私はとても幸せです。



令和 2年 11月
第 23号

深山の桜は、土手や公園に咲いている桜ではない。
その桜木は、最初は小さく、誰も気づく人はいない。何
年か、そして何十年かが過ぎ、やがて人々は、その桜木
の魅力に少しずつ気づくようになる。
はじめの頃はそこに道はない。一目見たいと人が集ま
り、だんだん細い道となる。
その桜は、奢る事もなく、ただ淡々と咲いて散るだけ。
そんな「深山の桜」のようでありたい。

発行所 株式会社GloveSupport

発行者 久保成明

〒818-0004

流紫野市大字吉木2459-1

未熟さをあらためる

以前深山の桜でもご紹介した「20の徳目」ですが、覚えていらつしやいますか？
人格を高めるうえで必要を要素であり、人間の徳性を磨き、社会の一員として正しく生きていくこ
と、また、実生活においては、人生の豊かさを味わうために、欠かすことのできない生涯学習だと考え
ます。

今年の一月に個人的な目標として20の徳目の16番目「寛容」を据えました。振り返ってみると3月
の放課後等デイサービス開設に向けた準備で、バタバタと動いては、従業者への気遣いや思いやりに欠け
る言葉かけや対応がありました。

そして、身近な家族に対しても未熟さが露呈する形となり、車の運転が荒くなったり、些細なことで
腹を立てるなど、残念で仕方がない結果でした。

一年を目前にして、前項の結果を踏まえながら、次の事柄を全うすべく努力したいと思えます。

- ① 従業者の過ちや欠点を責め立てず、一切を肯定できるようにする。
- ② 会社は考え方や生活習慣・育った環境が違う人同士が集まる場所なんだ。その方の話しをよく聴い
てすべてを大きく包み込もう。
- ③ 不平不満を自分が言わないようにしよう。
書くことや言うことは簡単ですが、行動することはとても難しいです。ましてや、行動させることはもっ
と大変なことだなあと、献身的な姿勢で忍耐強く、児童さんの支援にあたってはこあばこの先生方
を見ていて痛切に感じます。

「寛容さ」とは・・・他人の過ちや欠点を責め立てるのではなく、それぞれの立場で考えることのできる広
くあたたかな心の在り方です。

未熟さを改めるには、ただ許す気持ちだけではなく、表情や語調、言葉の選び方などにも気配りが必
要になります。

日々ご利用者様と向き合ってくれる職員に、より一層の配慮と思いやりを差し向けたいと私は思いま
す。

そして職員の皆様は、周囲の方々に向けて、喜んでいただける行動を真剣に考え、実行に移す準備を
して下されば、わたしはとても幸せです。